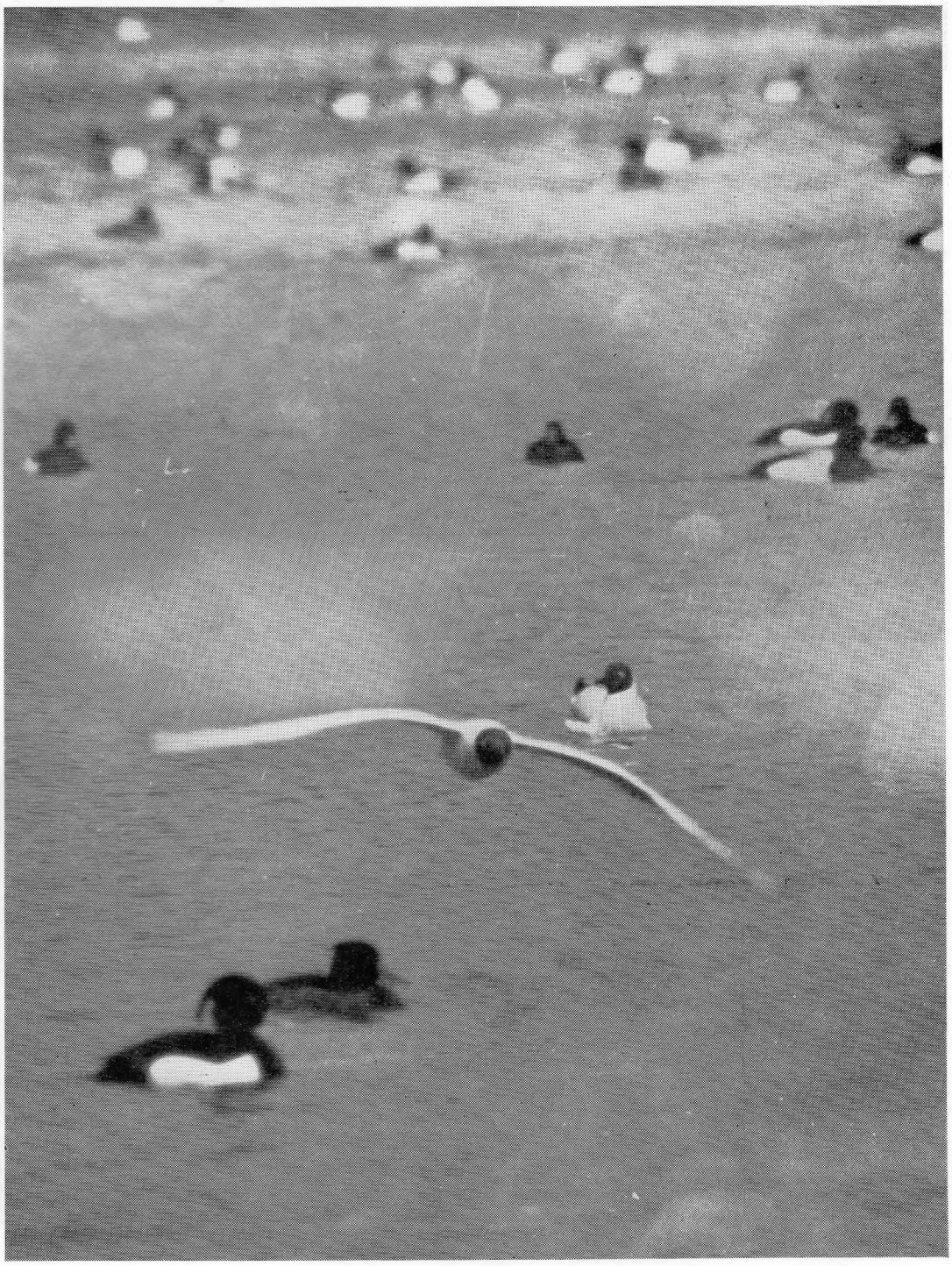
野鳥だより

—北海道—

第 28 号
編集者 北海道野鳥愛護会
発行者 北海道国土緑化推進委員会
発行日 昭和52年6月21日



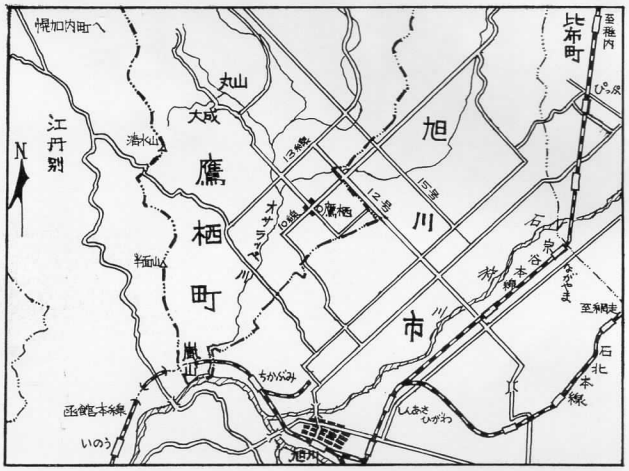
ユリカモメ　札幌市北区・ペケレット湖で　昭和52年5月4日　撮影 小堀煌治

鷹栖町の野鳥

―2年半の記録―

田　嶋　邦　生

上川郡鷹栖町は旭川市の西側に位置し、盆地状の平地は主として水田地帯になっているため、野鳥の生息環境としてはあまり条件はよくないが、周辺の嵐山、丸山付近などは比較的良好な自然環境が保たれており、訪れる鳥の数も多い。筆者は昭和46年7月に同町家畜診療所の獣医師として赴任して以来、野鳥の観察を継続してきた。そのうち昭和49年8月から51年3月までの約2年半に記録した分を整理したのがこの報告である。不十分な資料とは思うが、同地域における鳥相については、従来みるべきものがない点を考慮してまとめた。この付近の鳥相を知る一助になれば幸いである。



鷹栖町における出現鳥類リスト　　（合計　97種）

科名	種名	記録地 全町	石狩川	オサラッペ川	嵐山	丸山	大成	その他	記録年月・記録者
サギ	アマサギ							○ 14線13号	R.50.6　相沢広隆
ガンカモ	オオハクチョウ		○						R.50.3
	オシドリ			○					50.8
	マガモ			○					50.8
	カルガモ			○					50.8
	コガモ		○						51.2
	キンクロハジロ		○						50.3
	カワアイサ		○						50.3
ワシタカ	トビ	○							
	オジロワシ				○			○ 13線12号	R.50.3　51.1.3
	ツミ							○ 8線1号	R.49.8　山田良造
	ハイタカ							○ 20線12号	50.7
	ノスリ							○ 14線18号	50.11
	クマタカ				○				R.51.3　右高英巨ほか
	シロハヤブサ				○				R.51.3
	ハヤブサ							○ 10線4号	51.2
	チゴハヤブサ							○ 10線8号 17線12号	50.7
	チョウゲンボウ						○		50.8
キジ	エゾライチョウ				○				50.3
	コウライキジ							○ 20線12号	50.2

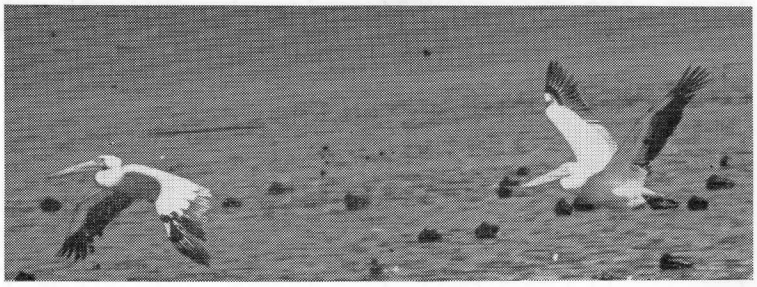
科名	種名	記録地 全町	石狩川	オサラッペ川	嵐山	丸山	大成	その他	記録年月・記録者
クイナ	バン							○ 12線7号	50.6 藤井 一
チドリ	コチドリ							○ 15線9号	50.5
シギ	ヘラシギ							○ 13線7号	R.50.8 前田 清
	イソシギ			○				○ 12線7号	50.8
	ヤマシギ					○			50.7
	オオジシギ							○ 14線12号	50.6
ハト	キジバト	○							
	アオバト						○		50.6 山田良造
ホトトギス	カッコウ	○							
	ツツドリ						○		50.5
フクロウ	コノハズク				○				50.8
	アオバズク				○				49.7
ヨタカ	ヨタカ							○ 8線5号	50.9
アマツバメ	ハリオアマツバメ							○ 12線7号	50.7
カワセミ	ヤマセミ			○				○ 12線7号	R.50.11 前田清ほか
	アカショウビン			○					R.50.7 前田清ほか
	カワセミ			○					50.8
ヤツガシラ	ヤツガシラ			○					R.50.11 前田清ほか
キツツキ	アリスイ					○			50.6
	ヤマゲラ				○				51.3
	クマゲラ				○				R.50.3 右高英巨
	アカゲラ	○							
	オオアカゲラ				○	○			50.3
	コゲラ				○	○			50.3
ヒバリ	ヒバリ	○							
セキレイ	キセキレイ						○		50.6
	ハクセキレイ	○							
	セグロセキレイ		○						50.11
	タヒバリ							○ 23線13号	50.4
ヒヨドリ	ヒヨドリ				○				51.3
モズ	モズ	○							
	アカモズ						○		
	オオモズ							○ 20線12号	R.50.1
レンジャク	キレンジャク	○							51.1
ミソサザイ	ミソサザイ				○				51.1
ヒタキ(ツグミ亜科)	ノビタキ	○							
	クロツグミ					○			50.7
	アカハラ					○			50.7
	ツグミ	○							
(ウグイス亜科)	ヤブサメ						○		50.6
	ウグイス	○							
	コヨシキリ						○		50.7
	オオヨシキリ						○		50.7
	センダイムシクイ						○		50.6
	キクイタダキ					○			50.6
(ヒタキ亜科)	キビタキ					○			50.5
	オオルリ							○ 15線5号	50.6

科名	種名	記録地 全町	石狩川	オサラッペ川	嵐山	丸山	大成	その他	記録年月・記録者
エナガ	エナガ				○	○			51.3
シジュウカラ	ハシブトガラ	○							
	ヒガラ							○ 25線15号	50.3
	ヤマガラ							○ 15線8号	51.2
	シジュウカラ	○							
ゴジュウカラ	ゴジュウカラ				○	○			51.3
キバシリ	キバシリ				○	○			51.3
ホオジロ	ホオジロ							○ 26線14号	50.4
	ホオアカ							○ 26線13号	50.7
	カシラダカ							○ 23線13号	50.4
	アオジ	○							
	クロジ						○		50.6
	オオジュリン							○ 17線14号	50.4
アトリ	アトリ							○ 19線14号	50.4
	カワラヒワ					○			50.3
	マヒワ					○			49.12
	ベニヒワ							○ 8線10号	51.2
	オオマシコ				○				R.50.1 山田良造
	イスカ				○				51.2 山田良造
	ベニマシコ					○			50.7
	ウソ				○				51.2
	イカル						○		50.5
	シメ							○ 19線14号	50.5
ハタオリドリ	ニュウナイスズメ					○			50.5
	スズメ	○							
ムクドリ	コムクドリ					○			50.5
	ムクドリ	○							
カラス	ハシボソガラス	○							
	ハシブトガラス	○							
	カケス				○				

〔注〕 1. 配列は日本鳥類目録、改訂第5版（1974）によった。
2. 表中のR.は稀な記録であることを示す。
3. 記録年月は一部を記載するにとどめた。
4. 記録者の記載のないものはすべて筆者自身によった。
5. 本報告は調査者が南米旅行中であったため、筆者の了解を得て、編集委員の一人、小川巌がとりまとめたものであることをお断りしておく。

1976年 冬の鳥・福岡

武井修一



有明海を飛ぶモモイロペリカン
1976年11月12日・諫早にて撮影▶

1976年11月～12月に福岡を訪れた渡り鳥のうち、福岡では比較的稀なものを報告します。丸数字は羽数。

クロトキ　11月・有明海①

コクガン　11月～・博多湾（福岡市）⑤

マガン　12月・博多湾（福岡市）

ヒシクイ　11月～・博多湾（福岡市）④

オオハクチョウ　11月・福岡県椎田町③
アメリカヒドリ　12月・江川ダム（福岡県甘木市）①
オオホシハジロ　12月・大濠公園（福岡市）①
アカハジロ　12月・福岡県粕屋郡①
セイタカシギ　12月・博多湾（福岡市）①
アリスイ　11月・福岡県大牟田市①、福岡県宗像町①
ツリスガラ　12月・今津（福岡市）

なお飼い鳥の逃げたものと思われるフラミンゴ1羽、モモイロペリカン3羽が有明海で見られます。

（福岡県甘木市楢原470—1）

帯広畜産大学自然探査会 鳥類研究グループの活動紹介

戸　田　敦　夫

私は昨年本会に入会したのですが、実際の活動は自然探査会という大学のクラブ部員として活動しています。そしてそのクラブの中の野鳥好きの仲間と鳥類研究グループを作り、大学周辺や帯広・十勝地方の鳥の観察などを行ってきました。また昨年は、今年2月に帯広で行われた私達のクラブ活動の集大成ともいうべき「日高の自然展」のために、日高山脈の各地に野鳥の調査に出かけました。

現在このグループのメンバーは8人ですが、本州方面の都会からやって来た者が多く、大学入学後北海道の自然に触れ、都会ではもはや見ることのできないいろいろな野鳥やその生命活動を目の当たりに見て、それで初めて「こんな鳥が日本にもいたのか」と知って感動し集まったというのが本当の所で、まったくの素人の集まりなのです。

ギンザンマシコの雌雄（日高・幌尻岳七ツ沼カールで）

私達のふだんの活動は、先にも述べたように、大学周辺での野鳥観察、大雪山や日高山脈での山野の鳥の観察、あるいは海岸へ行って水鳥の観察といったいわば探鳥会のような活動と、それから繁殖期には繁殖行動の調査といった活動が主です。だいたいの活動の概略を述べましたが、次に私達が行ってきたここ2年間の具体的な活動について報告したいと思います。

一昨年の主な活動は、繁殖期における野鳥の活動とテリトリーについての調査、および日高山脈におけるクマゲラの繁殖確認でした。前者については、大学周辺で繁殖するノビタキとアカハラについて繁殖期を通して継続的に調査しました。その結果、抱卵・給餌の回数や雌雄の分担・巣立ち・テリトリーの防御行動などがわかりました。また後者については、6月末に日高山脈ピリカペタヌ沢を遡行中、偶然クマゲラが営巣しているのを発見しました。そして巣穴からは親を待つヒナが時々顔を出していました。この発見によって、日高山脈でもクマゲラが繁殖していることが確認できました。

昨年は、大学の隣にある帯広農業高校のカシワ林においてアカゲラの生態について、冬から夏にかけて長期間調査しました。この調査では、テリトリー形成過程・争い、巣造り、抱卵、給餌、巣立ち、そして巣立ち後のヒナの行動について継続して行いました。その結果次のことがわかりました。

1）冬は、雌雄とも日の出から日没まで活動する。
2）テリトリー争いは、2月末から始まり、4月下旬まで続く。
3）巣造りは、4月下旬から5月中旬にかけて行われる。
4）抱卵は5月中旬まで行われる。
5）給餌は6月上旬から下旬にかけて行われる。
6）巣立ち後1週間から10日間ぐらいはヒナは巣の近くの木の上で親から餌をもらう。

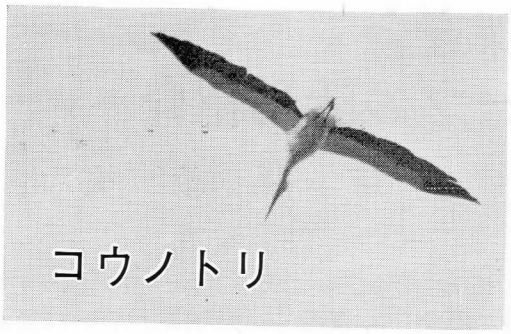
この他には夏休みに日高幌尻岳七ツ沼カールにおいてノゴマのテリトリー調査と野鳥の種類数調査を行いました。当地におけるノゴマのテリトリーの大きさ（直径約40～60m）や活動、植生との関係などがわかり、また七ツ沼に生息する野鳥としてノゴマ、ルリビタキ、カヤクグリ、ビンズイなど15種が確認されました。そしてこの調査中に私達は、偶然ギンザンマシコのつがいを発見しました。この発見は大雪山だけでなく日高山脈でもギンザンマシコが繁殖している可能性を示していると思いま

す。

さらにもう一つの昨年の研究テーマは、日高山脈芽室岳における野鳥の垂直分布を調べることでした。これは昨年6月初旬から7月初旬までの1カ月間に4回の山行を行って調べました。この調査の結果、標高やその高度の違いによる植生の変化で、野鳥の種類が変わっていくことがわかりました。

以上がここ2年間の私達の研究成果です。今年はアカゲラの調査を引き続き行うとともに、さらに別の新たなテーマを見つけて研究したいと思っています。

（帯広市稲田町・帯広畜産大学畜産環境学科野生動物管理学研究室）



コウノトリ

②　　野　村　梧　郎

◇ある騒動

現在では朝鮮半島でもコウノトリは非常に珍しく、ほとんど見ることの出来ない鳥になってしまったらしいが、30年以上前のことしか知らないので、なかなか現実の問題として認識できずに困っている。

コウノトリとの再会は昭和51年9月26日、新篠津村北6号地先の石狩川堤外地でのことで、30数年ぶりのできごとになるのだが、実はそれより2年前の昭和49年も押しつまった12月28日、早朝に稚内を出発した急行利尻の車中で、すでに野生状態でなくなったコウノトリを抱え、何とも名状しがたいため息をついていた。

この年10月頃礼文島にコウノトリが飛来したという連絡があった。北海道では昭和47年に続いての記録であり、渡りの途中に立ち寄ったものと思いこみ、この珍しい鳥の渡来を迷惑がる理由は全くないので、驚かさないよう観察を現地に依頼し、いつ飛び去るものか、次はどこに姿を現すかということに興味を持ったくらいで、年末になって大事件になろうとは予想もしていなかった。

このコウノトリは礼文島が余程気に入ったようで、私の予想に反して秋が深まり季節が冬に変わっても島を離れようとしない。島の小さな沼や川が凍るにつれて餌場を変えてはいたようだが、この鳥が島を離れないうちに北端の島は厳寒期に入ってしまった。

そのうちにそのうちにと思っていたのに、コウノトリはとうとう飛び去らず、保護のための捕獲といっても、この大型の鳥を傷つけず安全に捕獲する確かな技術や道具は島はもちろんのこと、北海道にはない。以前兵庫県で最後の生き残りの番いを捕獲したとき、火薬を使って網を飛ばしてコウノトリを捕えたのを思い出し、環境庁にしかるべき措置を頼んでみたが、キャノンネットと称するこの網は外国からの借り物で早急には間に合わないという返事で終わってしまい、給餌とか氷を割って餌場を確保することも考えてみたが、厳寒のなかでこれらの方法が口で言うほど簡単に行えるものでない。

有効な手段をとれないままに日を送るうちに12月25日の朝、突然宗谷支庁から無事に保護収容したとの連絡が入った。この数日島の水面の凍結が急速に進んだようで餌場を失い餓死寸前の状態で氷の上にうずくまっていたのを、早朝漁に向かう漁師が発見し保護したことが後でわかった。保護したコウノトリは10℃程度に温度を調節した役場の会議室に収容し、氷を割って採取した魚をやっているとの連絡にやれやれと思ったが、現場の苦労は大変なようで早くしかるべき施設に移したいという。

◇輸　　送

保護収容は円山動物園に快く引き受けてもらったが、運搬の目途が立たない。何よりも困ったのは海が荒れ欠航続きの連絡船の運航の目途が立たないことで、いらいらが募るばかりだったが、そのうち巡視船の協力が得られるということでこの問題は急転直下解決した。

コウノトリの離島は27日。この日は宗谷支庁に留めて置き、28日の朝、稚内発函館行きの急行宗谷に積むのが最も便利だが、コウノトリのような大きな鳥を入れた箱を列車内に持ち込むことは通常認められるものではない。万やむを得ず仕事の上で知り合いの国鉄道総局のN氏に事情を打ち明け頼み込む。ただでさえ混み合う年末の列車にこの大荷物の持ち込み、断られたらどうしようとの心配はおおいにあったが、N氏と稚内駅との協議は無事に終わり、12月28日朝稚内発急行宗谷の最後部の客席外に積み込むことで了解がとれた。札幌駅からの運搬は円山動物園のトラックに頼むことで動物園のK課長の了解をとり、受け取りのため稚内まで赴くこととし27日の夜行に乗った。年末のため車内は混んでいたが一応の目途がたったためよく眠れた。

朝目覚めると宗谷地方の平原は数日間荒れ続けた吹雪がおさまり、穏やかな朝を迎えていたが、汽車がえらく遅れている。吹雪の影響によるものらしいがどうも稚内まで行っては折り返しの汽車に間に合いそうにない。繰り返ししつこく専務車掌に時間を確認し、稚内行きをあきらめ豊富駅で下車して上りの列車を待つことにした。

◇羽ジラミ

豊富駅から稚内駅への電話連絡を開始したが、連絡が

うまくいってなかったようで、担当者の気嫌が良くない。なんとしてもコウノトリを列車に積んでもらわなければならないので、訳はよくわからないまま謝まっておく。

交代して電話口に出た支庁担当者の元気の良い声を聞いて安心し、どうやら汽車を待つだけの身になった。この日の豊富駅で見た電柱の風上側に昨日までの吹雪の強さを証明する雪が、べったりと凍りつき朝日に輝いていたのが印象に残った。

帰路の列車はほとんど定時に豊富駅に着いた。列車の最後尾の洗面室でベニヤ張りの大きな箱を発見しても中をのぞくまでは安心出来ない。そっと蓋をずらすとノッソリとコウノトリの大きな頭が動く。なお目を凝らすと首筋がネズミ色に変色するほど羽ジラミがついているのが見える。とにかくここまで来た薄汚れたコウノトリの頭を見直し、あらためてホッとした。

野幌探鳥会

梅木賢俊

今年度初めての探鳥会であり、この時季はまた野鳥の囀りも盛んなので、多数の参加が期待された。特に一週間ほど連日好天が続き、真夏並みの気温を記録した日が数日あっただけに、一層期待が大きかった。しかし、前日の14日夕から、低気圧の接近のため、にわかに空模様があやしくなり、探鳥会当日は、今にも泣きだしそうな空模様であった。

集合場所である北海道女子短大前でバスから降り、あいさつもほどほどに探鳥を開始した。女子短大から森林公園の中央口に至る道路沿いの住宅周辺の草地では、ムクドリ、オオジシギ、ホオアカ、ノビタキなど10数種の野鳥が見られた。

中央口から桂コースに向けて、いよいよ本格的に探鳥を行ったが、曇天にもかかわらず林内では、シジュウカラ、ハシブトガラ、センダイムシクイ、アオジ、オオルリ、ヒガラ、ツツドリ、コルリなどの囀りを聞くことができた。

大沢園地を過ぎて間もなく、池沼できれいなオシドリのオスが1羽水面を遊泳し、更にオスが2羽水面上空を飛翔するのが見られた。

この日は、一時小雨が降ったが、それでも風もなく、また曇天が幸い（？）してか行き交う人もほとんどなく、探鳥会としてはまずまずであった。特に森林のいたるところでイカルが見られ、張りのある「キィコ、キィコ、キー」の囀りが聞かれた。全体的には「イカルの日」という印象が強く感じられた探鳥会の一日であった。

〔とき〕　昭和52年5月15日　8：10～13：30

〔担当幹事〕　野口正男・羽田恭子・溝部泰子・梅木賢俊

〔記録された鳥〕　スズメ　ムクドリ　オオジシギ　ハクセキレイ　ホオアカ　キジバト　ヒバリ　ヤマゲラ　アカハラ　ノビタキ　モズ　シメ　ビンズイ　カケス　ゴジュウカラ　シジュウカラ　ハシブトガラ　イワツバメ　センダイムシクイ　クロツグミ　アカゲラ　アオジ　コゲラ　ヤマガラ　イカル　オオアカゲラ　キビタキ　ヒヨドリ　ツツドリ　コルリ　アオサギ　ハシボソガラス　エナガ　ニュウナイスズメ　オオルリ　トビ　オシドリ　ウグイス　ヒガラ　エゾライチョウ　コサメビタキ　カワラヒワ　ヤブサメ　ベニマシコ　マガモ　アマツバメ　不明ワシタカ類　合計47種類

〔参加者〕　柳沢信雄、柳沢千代子、早瀬広司、早瀬富、三木　昇、小野寺敬子、山口信子、舟橋直人、緑川祐二（順不同）

●表紙のことば●

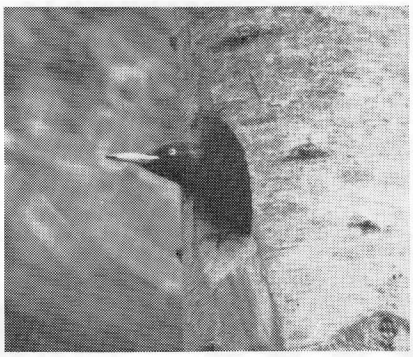
ユリカモメ

小堀煌治

ペケレット湖は石狩川の三日月湖です。今年の春は冬鳥の渡りが遅いということもあったのでしょうが、この小さな湖にあふれるように水鳥が集まっていました。正確にカウントしませんでしたが、3千～4千羽はいたようです。圧巻でした。キンクロハジロが圧倒的に多く、次にスズガモ、ホシハジロ、ユリカモメも混じっていました。ユリカモメは写真のように夏羽に換わり独特の尾羽を立てるようなスタイルで水に浮かんだり、時にはかなりのスピードで鋭く飛び回っていました。ここの鳥は一般に警戒心が少なく、静かにしているとスズガモなど30m位まで近寄ってきます。しかし秋は少し事情が違い、昨秋も観察に来たのですが、狩猟期で鳥たちも何かオドオドしていて、遠くで銃声が聞こえると一斉に動き始め、落ち着きません。近くの沼で鉄砲に追われここに逃げ込むのでしょうか。この湖は個人の庭園の一部で、主人が鳥に理解があり、水辺も自然の状態を保ち、ボートも入れません。一種のサンクチュアリなのです。こんな場所を何か所か作っておかなければ、狩猟も人間の一方的な殺りくのゲームになってしまうのではないでしょうか。

函館のクマゲラ

吉沢貞一



五月一日発見当日撮影。穴の下の樹皮の擦過傷は、この一月大間伐を行い、巣のある木の近くの木が倒れた時に受けたもの

コウノトリは3月4日最終確認で、一応ケリがついたと思ったとたん、今度は函館でクマゲラが見つかった。今まで見たことはもちろん、この辺にいると聞いたこともない。偶然の発見だった。大体クマゲラなどは大雪山を中心に、道央で少数生息しているとのみ思っていた。道南では稀に見たという話もあるが、いないというのが定説だった。

場所は亀田川上流、コケトリ沢。トドマツ人工林縁である。鳥獣保護員としてよく巡視に来る所で、まだ雪のある3月下旬に来た時には気づかなかった。近くに中野ダムがあり、このかさ上げのため道路改修工事中で、ブルドーザー、トラックなどのうなりや、大金属音がこだましてくる。深閑とした山奥ならまだしも、こんな所に営巣するとは、不思議でならない。

5月1日巡視中、山道を下って来た折、後方で何か走ったような気配を感じたので、ひょいと右手を見たら、真っ黒な影が木にくっついていた。歩行中だからほんの一瞬で木の陰になった。残像を整理したら頭が赤かったような気がした。夢にも思っていなかったが、もしやクマゲラでは？　それから半信半疑で静かに静かに捜し回った。ちょうど直角から反対側に行った時だ。いた!! 穴から赤いベレーのまぎれもないクマゲラの雄がいた。とうとう稀有の天然記念物を見つけた。年がいもなく身のわくわくするのをどうすることもできなかった。賢いものである。巣穴は山道の反対側に掘っている。5月4日には雌が頭を出していた。これで雌雄交代で抱卵していることがわかった。

木は50年近いトドマツの生木で、直径は55cm位。樹高は30m近い。上方に混み合った小枝を出す柱のような直立した幹である。巣穴は地上から7、8m、隣の木までは4、5mから7、8m、割合広い樹間になっている。またこの辺一帯の人工林は広大な面積だが、その先は雑木林、その先は老木うっ蒼たる天然林で、函館市の水源涵養林となっている。なお鳥獣保護区、自然景観保護地区にもなっており、クマゲラにとってはまたとない楽天地といえそうだ。人工樹種はほとんどがトド松、一部カラマツと杉。天然の樹種はヤマクワ、アサダ、ナナカマド、サビタ、シウリザクラ、シナノキ、ハンノキ、ヌルデ、コブシ、カタスギ、イヌエンジュ、タラノキ、カツラ、クリ、ホオノキ、エゾヤマサクラ、イタヤカエデ、ミズナラ、ドロノキ、トチノキ、ミズキ、ヤチダモ、アオダモ、ブナ、シラカバ等が主なものである。

5月13日、快晴。午前11時から午後6時までの7時間付きっきりでの観察は次の通り。姿、カメラを隠して、群れる小虫に悩まされながら、いつ姿を現してくれるか全くあてにならないことをあてにしての観察である。

1時24分　巣穴から初めて頭を出す。雌。25秒間

1時50分　巣の中を右に1回まわったように見えた。1分くらいチラチラ

2時50分　50秒間、2度ほど引っ込みかけた

3時35分　頭を出したがそのまま静かに引っ込む。20秒間

4時20分　巣穴より飛び出して、近くの杉の木で啄食してすぐ巣に戻る（2分間位）（杉の木まで50m位、100本位ある林。木の皮がバサバサで虫がいるようでなかった）

4時30分　いつの間に来たか雄が近くの枝に止まり、キョッキョッと4回相当大声で鳴く。穴から雌が頭を出したと思ったとたんに飛び出してどこかに低空で行った。雄はすぐ代わって穴に入る。雌雄交代の抱卵である。この間20秒

5時00分　穴より頭を見せる。そのまま、ゆっくり引っ込む。30秒間

5時20分　頭をすっかり出してほとんど動かない。2、3度頭をかしげた程度。金色の目玉だけがキラキラ光ってよく見える。2分30秒間

5時45分　1度引っ込みそうになったがまた出直して引っ込む。30秒間

その後なかなか出てこないので、6時で一応切り上げた。何かのご参考になれば幸甚です。

5月26日、様子が少し変わっていた。抱卵状態ではないように思われた。雌が外から飛来して3分位でまた巣外に飛び出した。巣内からは雛の鳴き声など聞こえてこなかったが、もはやふ化したに違いないと思われた。こうなると人目にもつきやすくなるので警戒の心配も倍加してきた次第である。

（5月30日記、函館市万代町7—24）

鳥民便り

◆おわび　27号P6の月別出現種類数の本文中(図1)とあるのは（表2）、P9コウノトリの本文最初から5行目「が」と「度」の間に「38」が入り、写真撮影日は9月26日でした。鳥民だよりのラジオ番組紹介中「動植物歳時記」は3月中で終わりました。以上慎んで訂正、おわび致します。　（編集部）

◆調査にご協力を　今年度から当会では、毎年記録をとる鳥12種、分布図作成などのため年度毎に定める鳥（今年度は4種）の2本柱で調査に取り組むことに決まりました。道内各地にお住まいの方全員に〝調査員〟をお願い致しましたが、可能な範囲で結構ですのでぜひご協力下さい。なお毎年初認記録をとる鳥は、オオジシギ、カッコウ、ヒバリ、モズ、アカモズ、ノゴマ、クロツグミ、ウグイス、キビタキ、シマアオジ、ハクセキレイ、イソシギ。分布図作成のため今年度調査する種はノゴマ、シマアオジ、メジロ、ヤマガラの4種。ご面倒でも観察場所（なるべく詳しい地名で）日時を書き、事務局あてお送り下さい。

◆手紙・はがきで原稿を　編集部では次号から本誌に会員の皆さんから寄せられた手紙・はがきを載せるコーナーを設けます。近況、感じたこと、観察日記等なんでも結構です。気軽にお寄せ下さい。（編集部）

◆鳥に関する資料ご寄贈を　編集部では今年度から会としての鳥に関する資料を収集することにしました。必要があれば誌上に掲載したり、収集状況を報告し、皆様の閲覧のご要望にも応えたいと思います。どのようなものでも結構ですのでご寄贈下さい。1種につき2部であれば誠に幸いです。　（編集部）

◆今冬の異常寒波による鳥への影響を　まとめてみようと思います。シロフクロウがあちこちで見られたり、冬鳥がいつもより南へ下るなど例年と違った状況があったと思いますが、お気付きになったことなんでも結構ですのでお知らせ下さい。　（編集部）

◆事務局から地方探鳥会について　本会の探鳥会は地理的条件などの関係からほとんど札幌市近郊で行われています。これについて最近、地方でも探鳥会を開くようにという方が多くなりました。確かに探鳥会を各地方で行うのは良いことですが、現在の本会の力では時間的、経済的な制約を受けて実現しにくいのが実情です。関係の会員の方々には誠に申しにくいことですが、将来本会の力がついた時には、何かの形で各地で探鳥会を始め色々な催しもできるようになるのではないかと思います。それまでは難しい問題としてご了解ください。

◆各地の探鳥会　上記の件にも関係しますが、編集部では今号から各地のグループの探鳥会の案内も「探鳥会案内」欄に掲載致します。ご利用下さるとともに探鳥会の日程が決まっていましたら掲載致しますので編集部までご連絡下さい。

◆事務所移転　これまでの道庁自然保護課から道緑化推進委員会（札幌市中央区北4西5、林業会館内電 261—9022）に移りました。問い合わせ、連絡、郵便物等は今後こちらにお願い致します。　（事務局）

◆原稿・写真を　待っています。今号に続き9月、12月、3月の発行を予定しています。原稿・写真（特に表紙）の山でうれしい悲鳴が上がる事態を期待しています。特に初めての方大歓迎です。　（編集部）

夏鳥の初認（1976年）　③

◆　函館とその周辺　　吉沢貞一

3．26　**ヒバリ**、4．4　**アオサギ**(汐泊川豊倉橋付近)、4．8　**ヤマセミ**（栃の木神社下流）、4．17　**オオジシギ**（鉄山町）、4．30　**アカショウビン**（大沼）5．10　**ツツドリ**（上磯町茂辺地）、5．16　**アオバト**（鉄山町）、6．8　**ホトトギス**（桔梗町中の沢）、6．18　**ハリオアマツバメ**（中野ダム下流）

カッコ内は記録地で大沼、茂辺地以外はいずれも函館市内の記録。

◆　苫小牧（北大演習林）　　松岡　茂

3．15　**ヒバリ**、3．23　**カワラヒワ**、4．1　**ホオジロ・オオジシギ**、4．4　**キジバト**、4．9　**ヤマシギ・トラツグミ**、4．15　**モズ**、4．16　**アオジ・ビンズイ**、4．21　**メジロ**、4．23　**ニュウナイスズメ**、4．26　**クロツグミ**、4．27　**ヤブサメ・センダイムシクイ**、4．30　**アカハラ**、5．1　**ウグイス**、5．4　**コムクドリ**、5．7　**エゾムシクイ**、5．8　**オオルリ・コルリ・ツツドリ・アオバト**、5．9　**キビタキ・イカル**、5．12　**アカショウビン**、5．13　**コノハズク**、5．19　**コサメビタキ・カッコウ**、5．31　**ヨタカ**

ニュウナイスズメについては、石城謙吉氏が4．20に記録している。

◆　札幌・真駒内その他　　新妻　博

3．29　**ハクセキレイ**、4．1　**カワラヒワ**、4．3　**ヒバリ**、4．3　**モズ・ホオジロ**、4．10　**キジバト**、4．11　**イソシギ**、4．15　**トラツグミ・キセキレイ**、4．17　**シメ・ベニマシコ**、4．22　**イワツバメ**、4．25　**アオジ・ウグイス・イカル**、4．28　**セグロセキレイ・ホオアカ・クロツグミ・オオジシギ**、4．30　**アカ**

ハラ・ヤブサメ・ノビタキ、5．3　アリスイ、5．8　センダイムシクイ、5．10　コルリ、5　11　メジロ・ツツドリ（いずれも厚田）、5．16　オオルリ・エゾムシクイ・ヤマシギ・アマツバメ（忍路）・イソヒヨドリ（忍路）、5．19　カッコウ・ビンズイ（恵庭）、5．20　カッコウ、5．25　アマツバメ・キビタキ、5．29　ジュウイチ・ヨタカ

記録地の記載のないものはすべて真駒内。

◆　十勝地方　　小野登志和

3．8　カワラヒワ（11．6）、3．22　ベニマシコ、3．28　アオジ（11．4）、4．3　ヒバリ（10．6）4．6　ホオジロ、4．10　オオジュリン（9　25）、4．11　アオサギ（9．27）、4．14　ノビタキ（9.26）・コチドリ、4．21　バン、4．25　オオジシギ、5.1　オオルリ、5．2　アカハラ・センダイムシクイ・ニュウナイスズメ、5．19　ジュウイチ、5．20　コヨシキリ（9．3）・カッコウ（7．27）

カッコ内は終認日（終鳴日もこれに含める）。このほか、オオモズの記録（4．10）もある。

◆　弟子屈町川湯　　百武　充

3．14　ムクドリ（8．20）、4．14　モズ（10．7）4．17　ヤマシギ（8．24）・ホオジロ（12．1）、4．23　アオジ（10．22）、4．29　オオジシギ（8．29）、5．4　アカハラ（7．9）、5．9　センダイムシクイ（8．24）・ビンズイ（10．18）、5．17　ツツドリ（7．10）、5．18　キビタキ（10．12）、5．24　カッコウ（7．9）

カッコ内は終認日。ただしアカハラ、カッコウ、ツツドリの3種は終鳴記録。

◆　中標津町　　中川　元

4．1　ハクセキレイ（開陽）、4．15　キジバト（当幌）、4．16　ベニマシコ（並美丘）、4．18　キセキレイ（養老牛）、4．25　オオジシギ・ウグイス（並美丘）、ノビタキ・ヤマシギ（武佐）、4．28　アオジ（並美丘）、5．1　アカハラ（並美丘）、5．9　ニュウナイスズメ・エゾムシクイ（並美丘）、5．10　センダイムシクイ（並美丘）、5．12　カワセミ（並美丘）5．16　コムクドリ（並美丘）、5．20　クロジ（並美丘）、5．24　キビタキ・コルリ（並美丘）、カッコウ（倶落）、5．26　コサメビタキ（並美丘）

つぎのとおり野鳥愛護会主催の探鳥会を開催します。知り合いの方など誘い合わせの上、多数の参加をお願いします。

〈札幌市福移（石狩河畔）探鳥会〉

◇とき　昭和52年7月3日（日）

◇集合　札幌市営バス札苗線「福移入口」停留所に午前8時40分までに集合。札幌市営バスセンターから札苗線午前8時1分発のバスに乗車してください（乗車時間は約30分）。

◇内容　オオジュリン、シマアオジ、ノビタキ、コヨシキリ、ベニマシコなど草原の鳥が見られます。

〈鵡　川　探　鳥　会〉

◇とき　昭和52年8月28日（日）・9月18日（日）

◇集合　国鉄日高本線「鵡川駅」に午前9時10分までに集合。札幌発午前7時40分の急行えりも1号が便利です。

◇内容　シギ、チドリ類を主体に観察します。

〈野　幌　探　鳥　会〉

◇とき　昭和52年10月23日（日）

◇集合　国鉄バス「北海道女子短大前」停留所に午前9時までに集合。

◇内容　カラ類やキツツキ類などの留鳥のほかに、ツグミなどの冬鳥が見られます。紅葉のきれいな時季です。

〈連絡先〉　札幌市中央区北4西5（林業会館）北海道国土緑化推進委員会内　電 261—9022

北海道野鳥愛護会

〈旭川野鳥の会探鳥会〉

◇旭山探鳥会　6月26日（日）午前9時・動物園入り口集合

◇江丹別探鳥会　9月25日（日）午前8時・上川支庁前集合（昼食持参）

〈連絡先〉　旭川市神楽町4の5　旭川営林局内林野弘済会　旭川野鳥の会

昭和52年度総会経過報告

昭和52年4月9日午後1時　北海道婦人文化会館

井上副会長が議長になり、議事次第に従い次の事項が審議され、原案どおり成立しました。

(1)　組織検討委員会の検討結果報告について　（検討結果報告書別記1）

(2)　規約改正について　（改正規約別記2）

(3)　昭和51年度事業報告並びに決算報告について

（報告書別記３）

(4) 昭和52年度事業計画並びに予算案について （計画書及び予算案別記４）

(5) 役員選出（役員氏名は別記５の名簿のとおり）

なお、規約改正に関連して会費が今年度から 1,000円に値上げになりますが、これにつきましては野鳥だよりを１回発行、郵送すると16万円ほどの経費がかかり、年４回の発行で64万円余りが必要になります。

会員数を 700人とし、この64万円の所要経費を均等に負担することにしますと、１人当たり 900円余りの経費が必要になり、 1,000円の会費のほとんどが野鳥だよりの発行によって消化されてしまいます。

この計算は会費の未納等がないことを前提にしたもので、そのうえ会の運営は野鳥だよりの発行だけで終わるものではないので、経理内容は非常に厳しいことを察していただき、会費の値上げは万やむを得ないものと了承されました。

〔別記１〕 野鳥愛護会組織検討結果（要旨）

会則の主な改正案は次のとおりです。

1 本会の目的として会員相互の親睦を図ることを強調したこと
2 事業内容を簡素化したこと
3 参与制度を廃止するようにしたこと
4 幹事の主要任務を明文化したこと
5 総会開催月を定めたこと

〔別記２〕 北海道野鳥愛護会会則（主な改正条項）

第３条（目的）本会は野鳥愛護活動の実践及び野鳥知識の普及を図るとともに野鳥保護の運動を通じて会員相互の親睦を図ることを目的とする

第５条（会員及び会費）本会の会員は、会の趣旨に賛同する個人又は団体をもって構成する

2 本会の会費は年額個人 1,000円、団体 3,000円とする

第10条（総会）総会は毎年１回、原則として４月に開催するものとし、予算、決算及び事業計画などを審議する

〔別記３〕 昭和51年度事業・決算報告（要旨）

〈事業〉１探鳥会の開催（51年８月より52年３月まで８回）２会誌の発行（24号より27号まで４回）３組織検討委員会の設置と検討事項の報告（３名の委員により２回委員会が開催され検討された。報告内容は前出）４その他の事業等（干潟鳥類全国いっせい調査、支笏湖探鳥の集い、新年懇談会等）

〈決算〉収入 789,248円 支出（ 387,160円）差引残額（ 102,088円）

収入の部

	決算額	予算額
会　費	250,900	378,000
寄付金	1,600	0
雑収入	2,987	2,000
繰越金	233,761	233,761
計	489,248	613,761

支出の部

	決算額	予算額
印刷費	160,090	160,000
通信費	166,970	200,000
会議費	46,090	49,000
その他	14,100	204,761
計	387,160	613,761

〔別記４〕 昭和52年度事業・予算案（要旨）

〈事業〉１探鳥会の開催（52年５月より53年４月まで12回）２会誌の発行（28号～31号）３その他の事業

〈予算〉

収入の部

	予　算　額
会　費	532,000 個人 517×1,000 団体 5×3,000
雑収入	3,000
前年度繰越金	102,088
計	637,088

支出の部

	予算額	摘　要
印刷費	210,000	会誌160000 会員台帳等
通信費	166,000	送料148980 他通信等
会議費	80,000	総会、役員会、編集等
その他	181,088	保管庫等
計	637,088	

〔別記５〕 昭和52年度役員名簿

会　長　犬飼哲夫
副会長　井上元則　中野正彦　斎藤春雄　新妻　博　土屋文男
幹　事　飯山五玖子　梅木賢俊　岡田幹夫　小川巌　小野寺敬子　金田寿夫　川村順　亀尾紋十郎　小沢広記　小堀煌治　新宮康生　谷口一芳　中田克道　野村梧郎　野口正男　羽田恭子　萩千賀　平井さち子　藤巻裕蔵　藤本紀一　松岡茂　溝部泰子　村野紀雄　森拓人　柳沢信雄　（代表幹事・柳沢信雄）
監　事　苣野寿衛吉　佐々木勇

役員会経過報告

昭和52年４月４日午後６時　北海道婦人文化会館

特に議題を定めず、会の運営等について討議を行いました。主な内容は次のとおりです。

◇機構検討について

本会の運営方法等を検討するため昭和51年度の総会において設定された機構検討委員会の事業経過について土屋副会長から説明がありました（内容は総会での報告と重複するので省略します）。

◇昭和52年度の事業について

原則として昭和51年度の事業を踏襲するが、愛鳥週間を中心とした行事に力を入れること。

◇道内の他団体との連絡について

道内の保護団体との連絡協調についていろいろな意見が出ましたが、当面は旭川野鳥の会などの年間行事計画を関係者の了解を得て、野鳥だよりに掲載することにしました。

◇会務運営について

会務の運営方法については、事務局の体制を明確にすること、各幹事が職務を分担して会務を執行することなどが話題になりました。

特に会発足以来、道で会務のほとんどを処理して来たことについて意見が続出し、いつまでも道を頼りにするのでなく、会としてひとり歩きをする方向に向かうべきだということになりました。

幹事会経過報告

昭和52年4月18日午後6時　北海道会館

幹事15名が出席し、4月4日に開催された役員会の決定をふまえ、幹事の職務分担とその内容を次のとおり定めました。

◇総務関係

1　総会、役員会、幹事会等の開催案内
2　行事案内
3　野鳥だよりの発送
4　会員名簿及び台帳の整理
5　その他

◇企画関係

1　調査事項の整理及び取りまとめ
2　懇親会等の企画
3　他機関との連絡調整
4　会の運営方法の検討
5　その他

◇広報関係

1　野鳥だよりの企画、編集、発行
2　会員意見の把握及び情報収集
3　その他

◇探鳥会関係

1　探鳥会の企画、実施及び指導
2　探鳥会実施結果の整理及び総務、広報幹事への連絡
3　その他

◇会計関係

1　収入及び支出に関する事務
2　収支帳簿の整理
3　会費納入状況一覧表の整理
4　会員台帳の整理
5　会費未納通知及び督促
6　その他

会費値上げについて

さきに開催された昭和52年度総会において、会費が個人600円から1000円に、団体1500円から3000円にそれぞれ値上げとなりました。御承知のように会の運営は、会員1人ひとりの会費によってまかなわれておりますので、御理解の上、会費未納の方は早急に納入してください。また、納入されるときは、同封の郵便振替用紙（口座番号・小樽 18287番）によりお願いします。

（会計担当幹事）

〔編〕〔集〕〔後〕〔記〕

☆夏鳥が日毎に増えてくるこのごろです。われわれ野鳥愛好者にとっては最も忙しい時期ですが、皆さんの夏鳥初認記録はいかがでしたでしょうか。本号には道内各地の鳥相シリーズの一環として、田嶋さんに鷹栖町の鳥相について書いていただきました。続いて十勝地方周辺の鳥についても掲載する予定です。（藤巻）

☆今年は事務局も移り、組織も変わりました。これまでの安定状態はご破算になり、新しく出発するという状態で、大きな曲がり角に来ているようです。この辺で愛護会存続の意味も考えてみなければならないでしょう。野鳥だよりの中で会員の皆様と愛護会のあり方を考えてゆきたいと思います。編集委員は数も少なく昼間の仕事もあり、なかなか大変です。原稿が不足で発刊がむずかしいなどということがないよう協力願います。鳥の原稿だけでなく、会に対する疑問、意見等どんどん寄せて下さい。（小堀）

☆花の話で恐縮ですが、今春「北海道の花」の本が二冊でました。花の名を沢山知っていたら野山歩きもどんなに楽しくなるだろうと思っていた矢先のこと。小脇にはさんでの休日、心強いかぎりです。これに続き「北海道の野鳥」の出版、熱望します。（飯山）

☆野鳥だよりを通じて提供された鳥に関する情報量は相当なものになる。これをそのまま寝かしておくのはいかにも惜しい気がする。道内一円に会員がいる利点を生かし、これまで発表された記録と各自が蓄積している資料をもちよって北海道の鳥類分布図などは描けないものだろうか。今すぐに実現するのは無理としても、「その日」のために資料を集積していくのも、このたよりの使命の一つであると考える。引き続き各地の記録を寄せて下さるようお願いする次第。（小川）

☆札幌・発寒川畔でのイソシギの初認は4月12日でした（うちのカミさんの話）。その後、夕方から深夜にかけてピィリィリィといった声とともに、繁殖のディスプレィと思われる行動が見られました。そして5月8日、川畔の土手のくぼみに4卵があるイソシギの巣をみつけ、毎日、観察しました。5月30日、2卵がふ化。翌日の夕方、巣の近くで、ぬいぐるみのようなヒナ2羽が、親鳥と行動をともにしていました。無事に大きくなることを願うのみです。（梅木）

☆新年度から編集委員に藤巻さんと小堀さんが新たに加わり、昨年度、健筆をふるわれた馬場さんが仕事のつごうでやめられました。新体制のもと、会の組織再編ともあいまち、機能性と行動力をつけるべく張り切っております。会員の皆さんのご協力を。（森）